

## ◆ 今週のコメント

- ・ 梅毒(無症候(無症状病原体保有者))の報告が1例(女性, 40歳代)あります。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は性的接触(異性間)です。本年の累積報告数は3例となっています。
- ・ 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.24(10例)です。平成25年第51週(12月16日～12月22日)の1.71をピークに減少していますが, 依然として過去5年平均値を上回る状態が続いています。

## ◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は, 23.06(1,568例)で, 第5週(1月27日～2月2日)をピークに減少したものの, 依然として多い状態が続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 1例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 なし  
【1月以降の累積報告数 38例(肺結核 23例, その他結核 6例, 潜在性結核感染者 9例)うち喀痰塗抹陽性 11例】
- ・ 五類: 梅毒(無症候(無症状病原体保有者)) 1例, 早期顕症・I期 1例) 2例【1月以降の累積報告数 3例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	23.06	1,568
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.88	282
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.17	48
	③ 咽頭結膜熱	0.24	10
	④ 水痘	0.22	9
	⑤ 突発性発しん	0.15	6
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

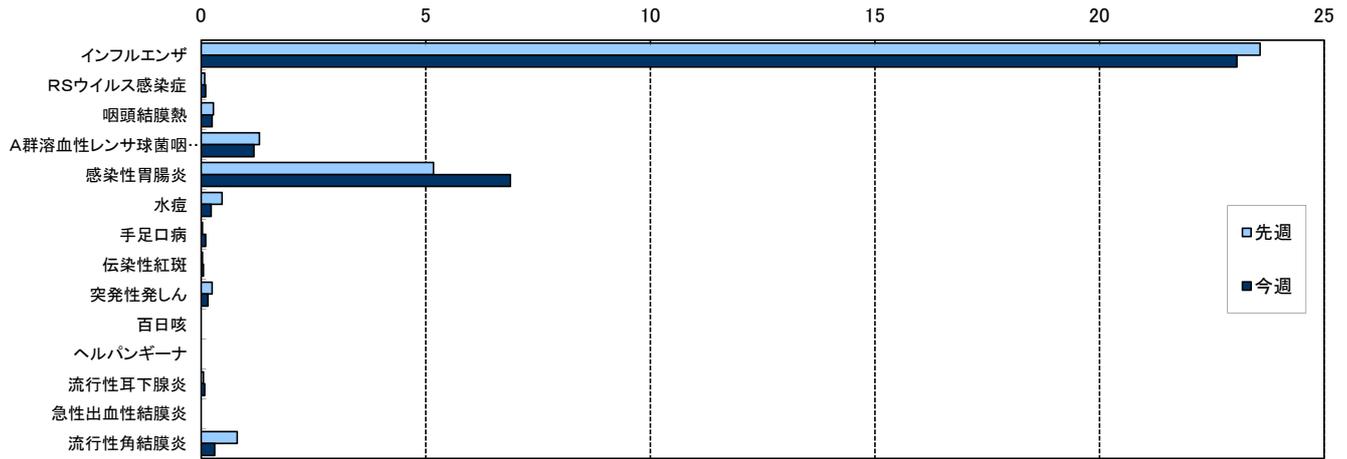
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは, 平成26年3月6日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

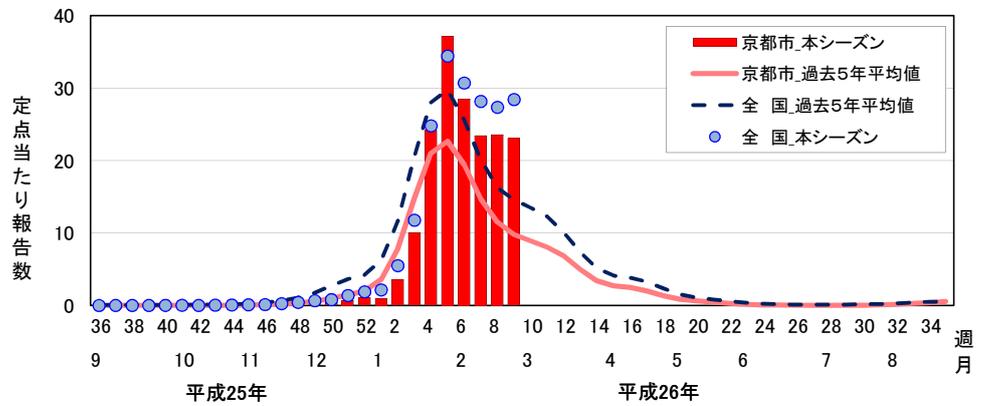
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第9週)と先週(第8週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第5週	2,529
第6週	1,938
第7週	1,594
第8週	1,603
第9週	1,568
累積報告数 (第36週以降)	12,083

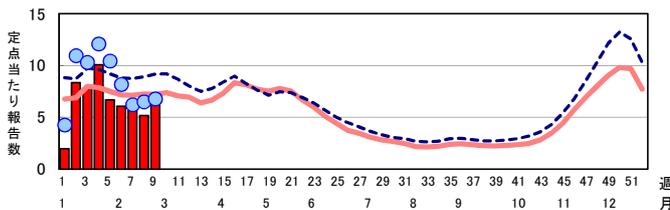


※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

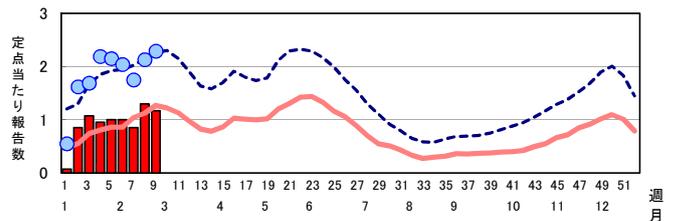
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

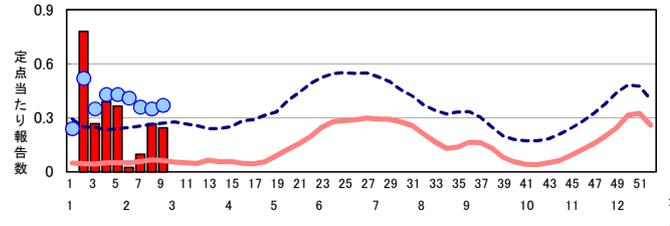
1 感染性胃腸炎



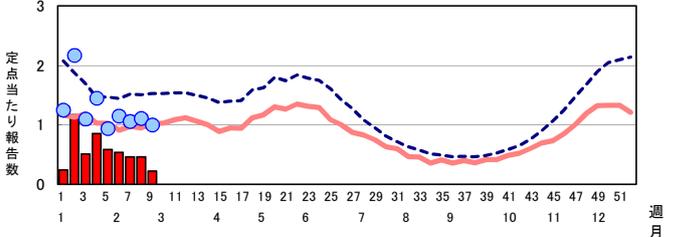
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



3 咽頭結膜熱

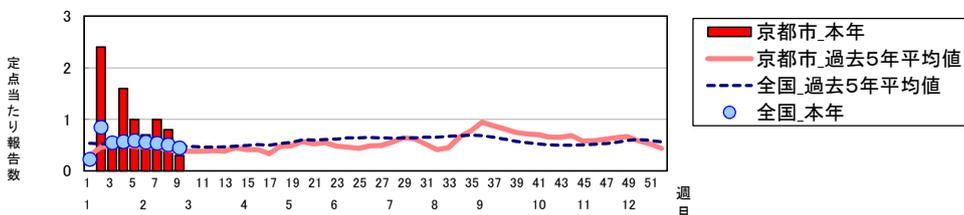


4 水痘



<眼科定点>

流行性角結膜炎



## 第9週(2月24日～3月2日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は、23.06(1,568例)で、第5週(1月27日～2月2日)をピークに減少したものの、依然として多い状態が続いています。

京都市衛生環境研究所では、今シーズンに、AH1pdm09を19例、AH3型を2例、B型を14例、分離・検出しています。全国のインフルエンザウイルス分離・検出報告数は、AH1pdm09 1,760例(47.2%)、AH3型 998例(26.8%)、B型 967例(26.0%)となっており、平成21年/22年シーズンに新型インフルエンザとして流行したAH1pdm09の分離・検出割合が最も高くなっています。(平成26年3月6日現在)

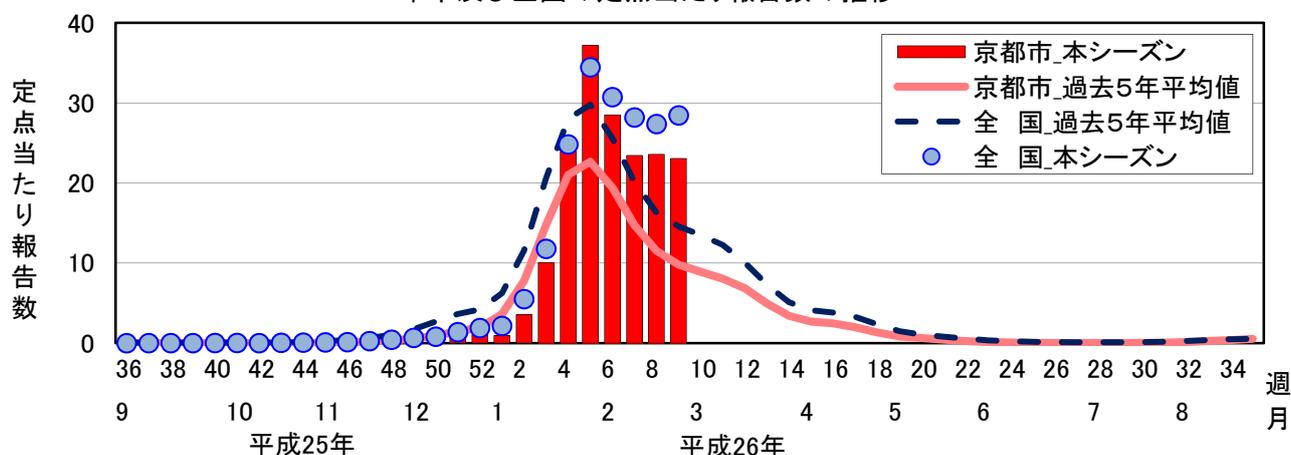
平成25年/26年シーズン開始以来、抗インフルエンザ薬耐性AH1pdm09ウイルスの検出報告が続いています。全国で解析されたAH1pdm09ウイルス 954株中56株(5.9%)が、オセルタミビル・ペラミビル耐性ウイルスでした。ザナミビル及びラニナミビルに耐性を示すウイルスは、これまでのところ1例も報告されていません。また、AH3型及びB型については、解析された株(AH3型 76株、B型 34株)すべてがオセルタミビル・ペラミビル・ザナミビル・ラニナミビルに対して感受性でした。(平成26年3月3日現在)

「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」において、平時における薬剤耐性株サーベイランスの必要性が明示されており、薬剤耐性ウイルスの検出状況を把握して速やかに情報発信することが重要であることから、国立感染症研究所と全国の地方衛生研究所が共同で薬剤耐性株サーベイランスを行い、発生動向を注視しています。詳細は、下記ホームページでもご覧いただけます。

○国立感染症研究所感染症疫学センターホームページ「インフルエンザウイルス分離・検出速報」

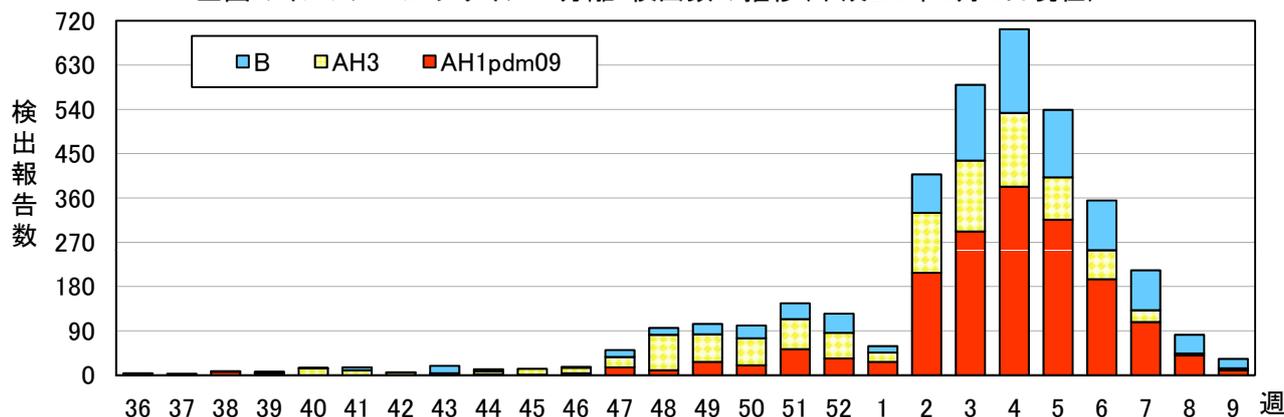
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

全国のインフルエンザウイルス分離・検出数の推移(平成26年3月6日現在)



抗インフルエンザ薬耐性株検出状況(平成26年3月3日現在)

	AH1pdm09		AH3		B	
	オセルタミビル ペラミビル	ザナミビル ラニナミビル	オセルタミビル ペラミビル	ザナミビル ラニナミビル	オセルタミビル ペラミビル	ザナミビル ラニナミビル
耐性株数 (%)	56 (5.9%)	0	0	0	0	0
解析株数	954	107	76	76	34	34
分離・検出 報告数	1710		979		927	